

# 遠藤周作学会 会報

第5号

2010年10月12日

発行 遠藤周作学会

代表 笠井 秋生

二〇一〇年度遠藤周作学会・総会報告  
事務局より

機関誌『遠藤周作研究』投稿規定

## プログラム

### 【研究発表】

① 切支丹時代が集約された『沈黙』

― 歴史的素材の再構成をめぐって

ノートルダム清心女子大学 山根道公

司会 山梨英和大学 川島秀一

② 遠藤周作と「隠れ」の信仰・生き方

― キリスト教の実生化を考える

京都ノートルダム女子大学

長谷川（間瀬）恵美

司会 京都外国語大学 長濱拓磨

③ 遠藤周作の文学における「母なるもの」再考

― 「かくれ切支丹」とフランスカトリシズムの靈性

上智大学 片山はるひ

司会 白百合女子大学 福田耕介

## ◇第五回二〇一〇年度遠藤周作学会・全国大会開催

第五回二〇一〇年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇一〇年九月十八日（土）に、長崎市立遠藤周作文学館で開催された。

運営委員会が行われた後、一三時より急遽欠席された代表の笠井秋生氏に代わって山梨英和大学の川島秀一氏の開会の辞にはじまり、続いて長崎市立遠藤周作文学館館長の森内敏和氏よりご挨拶をいただき、以下プログラムのとおり研究発表、総会が行われた。大会進行役は長崎県立大学の下野孝文氏と星美学園短期大学の武田秀美氏、長崎市立遠藤周作文学館の池田静香氏、ノートルダム清心女子大学の山根道公氏が担当した。

④ 西洋のキリスト教圏における遠藤文学の評価

Brigham Young University, USA

ヴァン・C・ゲッセル

司会 関西学院大学 細川正義

### 【総会】

総会は、議長に放送大学の小嶋洋輔氏を選出して開かれた。まず、二〇〇九年度事業報告がなされた。内容  
は次のとおり。

◆ 第四回二〇〇九年度遠藤周作学会・全国大会  
を昭和女子大学にて開催

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第3号発行

第四回遠藤周作研究会の発表者二氏に加え、  
ほか二氏の投稿論文、書評、二〇〇九年遠藤  
周作参考文献目録及び研究展望も収録。創刊  
号は完売、第二号は残部五〇部有り。一部千  
円（送料込）で販売も行う。

◆ 会員数は、二〇一〇年九月一八日時点で、七  
四名。二〇〇九年度の新会員は六名。

次に、事務局より二〇〇九年度会計報告が行われ、  
今年度より会計監査を行い、柴崎聰氏、兼子盾夫氏に

より監査報告がなされ、承認された。

続いて、事務局より二〇一〇年度事業計画について  
示され、承認された。内容は次のとおり。

◆ 役員改選が行なわれ、前役員に加え、新たに  
運営委員として、放送大学の小嶋洋輔氏、長  
崎市立遠藤周作文学館の池田静香氏を選出  
し承認された。また、機関誌や実務等をこれ  
まで代表と事務局で主に行なってきたが、今  
後は運営委員全体で分担していく。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第4号発行について  
二〇一一年九月発行予定、原稿締切は二〇一  
一年三月末。必ず30枚厳守で完全原稿を提出の  
こと。（投稿規定は本会報の四ページに掲載）

◆ 『遠藤周作事典』の作成については継続課題。

◆ ホームページの改良。

◆ 二〇一一年度の大会は、山口県下関の梅光学  
院大学で、九月十七日（土）に開催。

最後に開催地長崎の活水女子大学の奥野政元氏の  
閉会の辞をもって全国大会の日程を終了した。続いて、  
懇親会がホテル長崎にて盛大に行われた。

■ 事務局より

▼第五回遠藤周作学会・全国大会は、『沈黙』の舞台の地にある長崎市立遠藤周作文学館にて開催することができました。参加者は会員三十一名および聴講者約四十名で、周作クラブ長崎の会員の参加も多くあり、盛会となりました。この開催のためにご尽力くださいました遠藤周作文学館研究員の池田氏、長崎県立大学の下野氏には改めて御礼申し上げます。

▼大会終了後、文学館のテラスに出ると、夕陽に輝く大海が一望され、感動的でした。文学館は西に広がる海に向かって建てられており、そこには西から海を渡って入ってきたキリスト教を日本の精神風土で受容し、今度は日本から新たなキリスト像を西に向けて発信するという思いが込められていると伺ったことがあります。今回の研究発表は、まさに遠藤文学のそうした過程に触れるものであり、特に本大会のために来日された、遠藤作品の翻訳家でもあるヴァン・ゲッセル氏の、遠藤の示したキリスト像が欧米で新しいキリスト像を求めている読者に受け入れられ、高い評価を得ているとの発表から、遠藤文学が海を越えて影響を

与えている世界文学であることが改めて実感されました。

▼「遠藤周作研究」第4号の投稿論文を募集します。投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。投稿予定の方は、予め十二月末日までに投稿論文のタイトルを明記の上、事務局に執筆の申し込みをすることになっているので注意してください。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。次の会場は、下関にある佐藤泰正顧問の梅光学院大学です。充実した研究発表が多くなされることを期待します。

▼今回は健康上の都合で急遽、笠井代表が参加できず、代表がおられたら、さらに盛会になったにちがいない、まことに残念でしたが、代表のご健康が一日も早く回復し、来年の大会には、お元気な代表とともに多くの会員の方々と下関の地に集うことができ、実り多き大会になりますことを願っています。

# 『遠藤周作研究』 投稿規定

一 遠藤周作学会の機関誌として、広く会員の意欲的な投稿を歓迎します。投稿論文が掲載予定数を上回った場合は遠藤周作研究会で発表されたものの掲載を優先させていただきます。

二 投稿論文は原則として縦書きで、字数は四〇〇字詰原稿用紙に換算して三〇枚以内（注も含む）とします。

三 論文は完全原稿で二部提出してください（フロッピーを添付のこと）。執筆者の校正は初校のみです。

四 論文の審査などは編集委員会が行いますが、加筆・訂正などを依頼する場合があります。

五 投稿論文の執筆者には印刷費などの費用として一万円（二〇部買い取り）のご負担をお願いします。

六 投稿論文の締切りは、毎年三月三十一日（必着）とします。ただし、前年の十二月末日までに投稿論文のタイトルを明記の上、事務局に執筆の申し込みをしてください。

七 投稿先は、△遠藤周作学会事務局▽。

## 遠藤周作学会 事務局

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

ノートルダム清心女子大学 山根道公研究室

TEL: 086 (252) 3129

E-mail: yamane@post.ndsu.ac.jp